

**社会福祉法人小百合苑
令和5年度事業計画書**

小百合苑 事業計画

所在地 大阪府門真市古川町7番3号

理事長 大西宏幸

法人理念 子どもの最善の利益を考える 誇りと責任を持って真心保育を実践する
子どもの成長発達を支える 保育を通して福祉に邁進する
子育てに関わる社会的役割を果たす

法人事業 第二種社会福祉事業
イ)放課後児童健全育成事業 門真市立古川橋小学校放課後児童クラブ
ロ)一時預かり保育事業 古川園 柳町園
ハ)養育支援訪問事業 古川園
ニ)幼保連携型認定こども園 古川園 柳町園
ホ)小規模保育所 ブリスガーデン

- ・透明性の高い、地域に受け入れられる法人経営をする
- ・みんなの「生きる」を支える。社会福祉法人として地域共生社会の実現を考える。
- ・持続可能な法人を目指して SDGsの取り組みと働き方改革を積極的に進める
- ・地域の子育ての実情を踏まえ、子どもの居場所づくり、貧困対策を考える
- ・効果的な法人の広告のあり方を検討する

人事異動

R5年4月	古川園	柳町園	古川橋児童クラブ	ブリスガーデン
採用	山本(海)宮崎 岡本 迫田	秋山 水崎		
復職	久保	高橋		
休職	山本	京本		

職員研修

- ・法人合同研修未定 社会情勢を踏まえて開催を検討する
- ・保護者対応の言葉遣いやマナー、分かりやすく明確に伝える力をつける。保育サービスを提供する側、受ける側の価値観や考え方のギャップを意識し対応する。
- ・新任職員の育成に取り組む。

相談・苦情処理 各事業所に解決責任者・受付者を置き、虐待防止委員も兼ねる。

- ・苦情解決の体制を保護者に周知する
- ・保護者の意見を各事業所で公表・謝罪等、迅速に丁寧に対応する。保護者の声に基づき改善する。

	古川園	古川橋小学校 児童クラブ	柳町園	小規模保育所 ブリスガーデン
苦情解決責任者	古川園園長 藤岡里実 副園長 松成晋一		柳町園園長 大西宏幸 副園長 大西佐知子	
苦情受付者	主幹保育教諭 秋山尚美	主任 阿部利香	主幹保育教諭 平田玲子	施設管理者 眞野千恵美

福利厚生

- ・無配当総合福祉団体定期保険に法人職員全員の加入
- ・近隣市の採用条件を踏まえ、法人独自の保育士確保のため奨励制度を準備する。
- ・人材の確保や定着、育成に積極的に取り組み、人を大切にする。従事者の意見を取り入れ、働きやすい職場、労働環境の実現を目指す。業務の明確化を図り、意識改革をする。
- ・健康維持に取り組む。(メンタルヘルス、ワクチンの確保と費用負担)
- ・麻疹・風疹に備える。(抗体検査、予防接種の履歴確認等)
- ・職員健康診断 5/8(月)健診車と10月医療機関に分かれて受診

虐待防止・機関連携

- ・法人職員は児童福祉に関わる職務を自覚し、体罰、懲戒など子どもへの不適切な対応をしない。
- ・職員の倫理観向上 不適切な保育について話し合える関係性、風通しの良い施設づくり
- ・各事業所の虐待防止委員会を中心に虐待に対応できる体制を整え、不適切な養育や虐待が疑われることものの早期発見・防止・連携に努める
- ・市各機関・子ども家庭センターと連携し、門真市の抱える子育て事情に対応する。

法人内交流

- ・法人内施設交流 アフターコロナの社会情勢になり合同食事会を企画する

危機管理

- ・安全確保計画・事業継続計画策定 実情とすり合わせながら見直す
- ・ヒューマンエラーを自覚し子どもの安全についての意識と非常時の組織対応力を高める
- ・門真市内の急速な少子化に対応し、持続可能な法人となるよう園の付加価値を高める取り組みを行い、積極的に ICT と SNS の活用で園の魅力を情報発信して新規入園者の大幅な獲得を目指す。
- ・行政指示に基づき、引き続き感染症予防・感染拡大防止に努める
- ・災害・事件発生等の非常時は行政・警察の指示に従い、待機・避難等対処する
- ・浸水想定区域内であることを理解し、非常災害対策計画を見直す 南海トラフ地震に備える
- ・近隣地域の事件発生時はすみやかに防犯対策を取る
- ・事故ゼロ、怪我ゼロ、安全対策の徹底 発生原因究明と対策を講じる。月初めに安全点検。

乳幼児保育・教育事業 古川園・柳町園・ブリスガーデン

保育方針

一人ひとりのこどもを大切に、明るい笑顔、優しい言葉をモットーに
家庭的な雰囲気の中で真心のある保育を実践します

保育目標

よく見て、よく聞いて、よく考える子
心身共に健やかな子 思いやりのある心豊かな子

保育計画

子どもの最善の利益を考える
一人ひとりの個別計画のもとに成長発達を支える
子どもの立場や思いを理解し、楽しい園生活を保障する
叱らない 教える保育、喜びを感じる保育の推進
子どもの人権を守る(いじめ、仲間はずれ、懲戒等はしない、させない)

保育サービス 子どもの権利条約を認識し子どもの健やかな成長を目指す

年齢	認定	古川園	柳町園	ブリスガーデン
1号認定	教育時間	8:30~14:30	9:00~14:00	
2号認定	短時間	8:30~16:30	8:30~16:30	8:30~16:30
3号認定	標準時間	7:00~18:00	7:30~18:30	7:30~18:30
開門時間		7:00	7:30	7:30
閉門時間		19:00	19:00	18:30

- ・最低基準以上の職員配置
- ・保育サービス開始 重要事項説明書を説明し、同意を得て保育を開始する
- ・「認定の時間」と申請した「保育利用時間」の違いについて保護者に理解して頂く
- ・乳児保育 担当制と丁寧な保育
- ・一時保育 6ヶ月以上～就学前 子育て家庭・保護者を支援する保育サービス
- ・障がい児保育 適切な支援が受けられるよう、障がい・生活のしづらさ、困り感を理解
- ・門真市の著しい少子化を理解し、安定した利用者確保に向けて対策を練る。
- ・学校施設関係者評価 評価委員を行事や研修に招き、施設の現況を評価してもらう。

職員資質向上

- ・幼稚園免許状更新、処遇加算にむけたキャリアアップ研修の費用を負担し、対象者の必要科目の受講をできるよう積極的に支援する。
- ・スマイルサポーター・幼児教育アドバイザー養成講座等研修の充実、保育の質の向上を目指す。
- ・SDGsについて研究し、保育やこども達の生活の中に意識付けできるよう関わる。

地域貢献事業

- ・地域の子育てに関わる社会的役割を果たし、実績を積む。地域貢献支援員研修終了者増員。
- ・子育て支援を再開する

	古川園	柳町園	ブリスガーデン
園庭開放	月・火・水・金・土曜	水曜日	第2金曜日
育児相談	10:00~13:00	10:30~11:30	10:00~10:30
親子保育	第2火曜 10:00~10:45	水曜日年9回	
身体測定	11:15~12:00	10:30~11:30	
なかよし広場出張保育	5/25 9/2	11/8 2/7	
こども食堂			
地域貢献支援員 スマイルサポーター	秋山 松成 平井 富永 淡路 江口 倉本 石橋 小長谷 寺田 福本 寺馬 田中裕	大西佐 平田 橋田 古川	眞野

人材確保

- ・園独自の就職奨励金やオンライン就職活動、WEB採用を積極的に取り入れる
- ・いつまでも働き続けたい園、楽しい職場を目指し、離職を防止する

保育内容 PS(Planning Section) 子どもの活動・行事他

- ・乳幼児期の教育施設としてこどもの最善の利益を追求し、保育技術と知識の向上をめざす。
- ・アフターコロナに向かう社会情勢の中、感染症対策しながら臨機応変に保育内容を検討する。
- ・こども達が成人する未来の社会をイメージし、多様性を認め合い、グローバルな視点を育てる
- ・「生きる力」「社会情動スキル」を伸ばすための保育・教育を考える。言う力、聞く力を育てる
- ・保育中、職員は「私語」ではなく「保育」でコミュニケーションや連携をとる。
- ・一人一人の子どもの生育歴・心身の発達及び活動の実態に即し、個別計画を立てる。
- ・家庭と共に自己肯定感の向上を目指す。
- ・各機関と連携を取り、子どもを取り巻く環境、生活の保障、安全を守る。対応スキルを身につける。
- ・環境設定、玩具の特性・あそび方・片付け方、異年齢保育、読み聞かせ方法を研究する
- ・小学校との交流や保育園・幼稚園・小学校連携会議に感染症に配慮しながら参加する
- ・発達相談・門真市巡回指導が定着し、個々の発達に合わせた関わりの手法を学ぶ。

CS(Customer Satisfaction) 保護者・連携

- ・クラス、個人懇談を設け保護者の声を聞く、保護者アンケート結果をもとに計画を立てる。
- ・保護者の負担軽減を考える

危機管理

- ・園児確保を重点に。当法人3園で門真市入所申込数の50%以上から選ばれるを目標にする
- ・大規模災害に備え、保護者の連絡方法・園児受け渡し方法等を整える。帰宅困難時に備え、一泊分を目安に備蓄。非常時は地域の子どもを含めた保育に特化した地域の拠点となる。
- ・震度5弱の地震発生時には休園とする。ただし、門真市の震災対応の基準が明示されれば準じて変更する。市の災害対策本部が設置されれば連携し対処する。
- ・災害時や園周辺の事件発生時、その翌日等は子どもの安全を最優先に考え、保育に支障がある時は無理な開園はしない。自宅待機等、保護者に判断を求める。
- ・毎月の避難訓練 年1回二次避難場所移動訓練 古川園/古川橋小学校 柳町園/速見小学校
- ・門真警察・門真消防署による安全・防災指導は各機関の訪問が再開されれば、依頼する。

保健 嘱託医等

内科	歯科	眼科（柳町園のみ）	薬剤師
堺医院(堺昭彦医師)	堤デンタルクリニック(佐原起志子医師)	川上眼科(川上剛医師)	溝端裕巳

- ・感染症対応、医師の意見書を含む、重要事項は門真市公立園の対応に準じる。
- ・感染症予防策について職員指導をする。継続して肝炎ワクチン接種を続ける。
- ・厚生労働省発出のガイドラインを基に職員の対応を統一。こども集団生活の感染防止対策は困難だが重篤化を防ぐためだ切る限り取り組む。
- ・家庭と子どもの健康に関する情報共有に努める
- ・衣類などに汚物が付着した時は、感染拡大防止の為、洗わず、微酸性水で殺菌する。
- ・看護師による視力・聴力検査

食育

- ・ウオクニ株式会社に給食業務委託 毎月栄養士と給食会議を実施 門真市立保育所の給与目標栄養量を基準に献立作成する。安全な食材選び、こどもが満足する給食を目指す。
- ・アレルギー対応は「保育所におけるアレルギー疾患生活管理指導表」を6ヶ月毎及び、変更時に提出を求める。診断内容をもとに栄養士が除去食献立を作成。除去食配膳は専用トレー・食器を使用し、調理、担任のチェックを通し、提供直前まで個別ラップ包装する。
- ・誤嚥事故のリスクを見直し、食事中はこどもを見守る
- ・メニューの画像掲示。給食だよりの発行・レシピを掲載
- ・アレルギー児童がみんなと同じ給食を食べられる、アレルギーのないメニューの導入
- ・楽しい食育行事・菜園活動を企画する。栽培した野菜でクッキング保育を行う。

養成校連携・その他

- ・大阪福祉人材支援センター潜在保育士体験実習・高校生のための保育の職業体験事業・児童分野現場体験事業等に協力

古川園 事業計画 所在地 門真市古川町7-3 (法人本部と同じ)

園長／藤岡里実 副園長／松成晋一 主幹保育教諭／秋山尚美 淡路真弓 相談役／大西潤子			
0才15名	富永 久保 大屋敷 宮崎 廣内	フリー	保育教諭:福本 大谷 看護師:迫田
1才24名	江口 松井 東 大津 寺馬	早朝延長	早朝:田中(美) 延長:上田
2才27名	倉本 本吉 岡本 丸山 時田	学童兼任	阿部 田中(優)
3才32名	平井 朝山(な) 溝井 永井 田中(裕)	子育て支援員	羽藤
4才32名	小長谷 佐藤 山本(海) 保明	講師	体操:徳井 英語:作田
5才31名	石橋 横江	発達相談	卒田 こどもサポートルーム si-po
一時保育	福沢 寺田	保育補助	山口 高木 横山 小野 朝山(志) 笠原 早田 杉本

保育内容・研究課題

- ・クラスリーダーを中心に、倫理観の高いクラス、風通しよい園内環境を作る。
- ・美しい園内環境 遊びを深め、広げるため子どもも大人も整理整頓スキル向上。職員の意識改革。
- ・リスクマネジメントの見直し 人数点呼や午睡チェックなどの基本から再考する。
- ・こどもの主体性を重視した教育・保育、行事のあり方を引き続き考える。
- ・感染症の配慮をしながら、異年齢保育・交流を広げる。
- ・保育の可視化、言語化を研究する。園の保育を発信。職員も互いの保育を共有し高め合う。
- ・「じぶんまる」と自分のことが好きになるよう、自己肯定感を高める関わりを増やす。
- ・こどもにも、大人にも「わかりやすい」を研究する
- ・発達支援 専門職のサポートを受けながら、子どもの困り、保護者の思いに寄り添う。家庭と共に作る個別支援計画を保育に活かす。児童発達支援施設と連携する。
- ・ES(従業員満足度)委員が中心となり、休暇取得、保育のモチベーションを高い職場づくりをする。
- ・保護者保育参加を再開 保育について共有・共感・語り合う機会を増やす。

CS(Customer Satisfaction) 行事計画・メールのアンケート機能をマスターし災害に備える。

- ・おむつ定額制・園食具を導入する。園生活の子育て負担軽減案を検討する。

安全管理・園周辺の交通危機について再考する。

- ・防災・避難計画を保育に反映。地域組織とのつながりを高め、家庭の防災教育を発信する。

保健・食育・看護職採用により、医的視点で保育を見直す。看護職との業務のすみ分けを進める。

子育て支援・親子保育は少人数 2 部制開催 参加人数によっては 3 部制に増やす。

- ・古川園の伴走型子育て支援を深める。マタニティコアアの広報活動に力を入れ、定着を目指す。

施設整備その他

- ・屋上ゴムチップ修繕 ・業務用冷凍冷蔵庫買い替え ・ICT 導入とセキュリティ強化 ・修繕積立

柳町園 事業計画

所在地 大阪府門真市柳町14番10号

園長:大西宏 副園長:大西佐 主幹保育教諭 :平田 芝			
0歳 15名	岩崎 山口 高橋 中谷 秋山 安藤	1歳 24名	稲垣 鳴尾 江浦 篠川 水崎 永井
2歳 28名	池田 石川 善岡 友松 小島 島田	一時	須本
幼児 98名	川村 橋田 古川 田村 山之内 山田 北井 前川 大西貴		
子育て支援員	保育補助	丸尾 本田 大塚	休暇 京本
看護師	大橋	事務兼務	黒田 安藤
嘱託医	堺医院 堤デンタルクリニック 川上眼科	給食委託	ウオクニ株式会社
薬剤師	溝端裕己	巡回相談	門真市立発達支援センター 金納
お話会	門真市立図書館ボランティア	講師	徳井(体操) 吉田(こぐまチャイルド)

保育サービスの変更点

- ・捕食費の保護者徴収を行わないが、月1回給食室の閉鎖日を作りお弁当日の協力をお願いする
- ・食材費の高騰により、給食充実費として月額300円の負担をお願いする

少子化対策

- ・園児獲得を目標に、SNS を含めた情報発信と広告および見学の受け入れで柳町園の社会化する

保育内容 PS(Planning Section) 子どもの活動他

- ・年功序列を廃止して、全てのスタッフが柳町園で保育の理想を実現できるような職場関係を作りやなぎスタイルを文章ではなく動画で作成しより簡単に保育の共有ができる職場環境を作る
- ・幼児クラス担任にリーダーを集めて、「子どもの対話」と「深い学び」を幼児保育の柱にして、地域資源を活用してプロの技術を体験するなどプロジェクトを同時進行させて、ドキュメンテーションで保護者に活動の発信をする
- ・特許出願中の ICT を活用して活動時間でこどもの姿を具現化し、環境構成と支援に活かす
- ・乳児クラスは若いリーダーを元に連携をとって、共に学びあい、育ちあう関係を目指す
- ・肯定的支援を心がけて、興味や関心を見落とさずに、しっかりと集めて実現できる保育をする

CS(Customer Satisfaction)行事計画

- ・公開保育を企画し、園内研修や施設見学を積極的に行う
- ・発表会の代わりとなるようにドキュメンテーションを新しい子どもの活動報告方法にする

食育アレルギー疾患生活管理指導表と除去診断表を使用し、誤食や誤配の安全対策の強化をする

保健内科検診(年2回)、歯科検診(年1回)、眼科検診(年1回)、発育測定(月1回)、視力検査(年2回)、尿検査(1回)。インフルエンザや新型コロナウイルス等の対策。看護師からの月1回保健だよりによる健康に関する知識を家庭に周知する。012歳おむつ定額制の継続

地域子育て支援

- ・園庭開放と一時預かり保育を行うが、飲食を伴う子ども食堂は状況改善まで開催中止

施設整備

- ・令和6年度から門真市の土地の購入または賃借契約となるため、積み立てを継続する

その他

- ・キャリアパス研修への参加
- ・ブリスガーデンとの連携及び1号受入れ
- ・働き方の改革と意識改革 プラス思考への変換 休憩時間の確保と残業時間の削減につとめる

柳町園ブリスガーデン 所在地 大阪府門真市幸福町 4-22-3F

管理者	眞野	保育士	平尾 森川 門脇 西村 山平 北野 小窪
嘱託医	堺医院 堤デンタルクリニック	給食委託	ウオクニ株式会社

休園について

- ・令和6年3月31日をもって古川橋駅前都市開発によるビル取り壊しの為2年間の休園となる。令和8年4月より駅前タワーマンション2階で保育再開を求められているが、市内の急激な少子化で待機児童問題が解消されている現状と2年後の古川橋駅北部の人口増の状況を総合的に判断して、施設整備の開園資金も含めて門真市と協議を進めてブリスガーデンの将来を考える

保育内容 PS(Planning Section) 子どもの活動他

- ・開園6年目 狭い空間の中で同じスタッフがストレスを互いに与えない、感じさせない関係性を保ちながら、連携、共創して丁寧な保育を行う。
- ・担当制保育を今一度見直す。子どもへの関り、手順、言葉かけ、すべてが保育士個人の関りとならずに、ブリスガーデンで統一の関りを実践する
- ・保育士の配慮やかかわりを子どもの生活場面と連動させあらゆる角度から研究し、研修報告会を開いて開園からの研究成果を発表する。
- ・少人数ならではの保育である個別配慮と個別対応を充実させる。チーム保育を行わない。
- ・0 から 2 歳児 12 名の異年齢保育の中で、少人数担当制の配慮と関わりが年齢と発達に合わせて段階的になるように職員間の連携と保育の共有をする。
- ・戸外遊びの確保を行うとともに、気温の高い夏における遊びをどのように過ごすか考える

CS(Customer Satisfaction)

- ・休園後の園児の継続的な受け入れ先が柳町園となる様に門真市と協議を進めていく

食育

- ・一年を通して担当制による丁寧な個別のかかわりを実施する
- ・アレルギー疾患生活管理指導表と除去診断表を使用し、誤食や誤配の安全対策の強化をする。

保健・内科検診(年 2 回)、歯科検診(年 1 回)、発育測定(月1回)

地域子育て支援

- ・月 1 回親子の交流の機会を作り、いつでも何かあったら声がかかりやすい関係性と状況を作る

その他

- ・情報発信によってブリスガーデンを地域の保護者に社会化する
- ・キャリアパス研修に参加等で人材育成を行う
- ・働き方の改革。意識改革。業務の明確化を図り、休憩時間の確保と残業時間の削減につとめる
- ・施設整備にむけての積立て

青少年健全育成事業 古川橋小学校放課後児童クラブ

設置目標 児童に適切な遊びと生活の場を整え、異なった学年による児童の集団活動を推進することにより、放課後における児童の健全育成を図る

クラブ方針

- ・子ども達が楽しいと思える時間と場所を用意する。
- ・職員が丁寧に学習指導する。静かな落ち着いた雰囲気の中で子どものあそびと基礎学力を補う

所在地	門真市御堂町 18 番 9 号
定員・クラブ数・最大受入数	80 名・2 クラブ・158 名
4 月入会者 要配慮児	103 名 ・ 6 名
主任 / 副主任児童支援員	阿部利香 田中優 / 阪本真里奈 野口美千代
大阪府認定放課後児童支援員	阿部 田中 那須 野口 宮地 宮地 箕島
児童支援員 / 補助員	松原 喜田 三浦 / 宗友 平田

事業内容

- ・事業委託 15 年目 2022 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日
- ・子ども教室 委託業務の「子ども教室」の参加希望者が増えるよう取り組む
- ・小学校授業日の午前中は阿部・田中は古川園で勤務する

クラブ内容・活動・行事

- ・こどもを尊敬の対象として見る。こどもの人権を守る大人がいる
- ・こども主体の活動ができるよう、行事企画や長期休暇のスケジュール等をこども達と作る
- ・放課後等デイサービス利用児について、各施設と連携する。課題のある家庭を支える。
- ・学校教諭と一人一人に合った支援指導を共有し、成長発達を支える。
- ・感染症が落ち着けば保健福祉センター内の放課後等デイサービスとの交流会を実現させる。
- ・市から放課後子ども教室の委託を受ける。全ての就学児童が放課後等を安全・安心に過ごし多様な体験、活動を行うことができるよう学習支援・体験活動・交流活動を企画する。
- ・メール配信システム『安心でんしょぱと』で、保護者へ日々の活動を発信していく。連絡帳・通信日よりなどで、保護者との連携を図り、相談しやすい雰囲気作りを心掛ける。
- ・仕様書とは別に校庭開放事業について依頼を受けて いるが体制が整わず保留。
- ・4 月 112 人を超える最多在籍数。コロナ感染防止を考慮した対応が難しい。

食育・保健

- ・アレルギー児のおやつ提供は必ず二人対応、確認を徹底。エピペン、救急車通報訓練。
- ・感染症予防を徹底し、蔓延を阻止。門真市要綱のもと学級閉鎖対象児はクラブ参加させない。

危機管理・苦情

- ・避難確保計画をもとに大規模災害時は避難所開設も含めて学校と連携する
- ・下校方法の把握を徹底(学校集団・児童クラブ集団・個別迎え) 校区を把握し、緊急時に備える。
- ・4・9・1 月避難訓練 避難経路の確認 不審者情報が入れば、学校と連携し付き添い下校。
- ・ケガ、病気等、緊急事態発生時には保護者との連絡を密にし、市役所へ報告する

保育内容 PS(Planning Section) 子どもの活動他

0歳ひよこ組	個々の成長に寄り添い、心満たされる温かい保育
1歳りす組	見たい・聞きたい・やってみたい！みんなが小さなチャレンジャー！
2歳にじ組	自分でできる嬉しさ・楽しさ・大発見！
3歳ほし組	「お話大好き」「お友達大好き」笑顔いっぱいほし組さん
4歳つき組	何事もあきらめずチャレンジする 友達想いの優しいつき組さん
5歳そら組	友達を思いやり、助け合えるそら組に！
一時保育	一日元気に過ごす